

特集

私たちが 大山の魅力を お届けします



本町には、豊かな自然の恵みを受けた特産品が数多くあります。

今回は、その特産品を届けてくれる、恵みの里生産者協議会の皆さんに話を聞きました。

協議会の活動は

〔恵みの里公社 金田事務局長〕

平成21年からスタートし、大山恵みの里公社内に事務局を置き、各部署と連絡を取り合い運営しています。平成31年4月4日が道の駅10周年です。生産者と協議をしながら、さらなる活性化をはかっていきたいと考えています。



金田事務局長

生産者の登録数は

〔金田事務局長〕

約400です。
高齢化で退会される人もいます

が、最近では若手や定年後に農業を始めた人も入会してきています。

公社の課題は

〔果実部会 河村富士夫さん〕

最近では売り上げなどの目標に対して公社のメンバーのマンパワーが不足しているように感じます。

儲けがなかなか上がらない時代で継続していくのは大変だと思えます。

町の活力が保てるような組織として頑張っていきたいと思えます。



河村さん

〔花き部会 角田圭慈さん〕

みくりや市に長く関わってきました。現在は売れ行きも低迷してきています。

道の駅にも出荷していますが、売り場面積が狭いと感じます。土日はお客さんも多いです。活性化のために、なんとか売り場を拡張したいと

考えています。



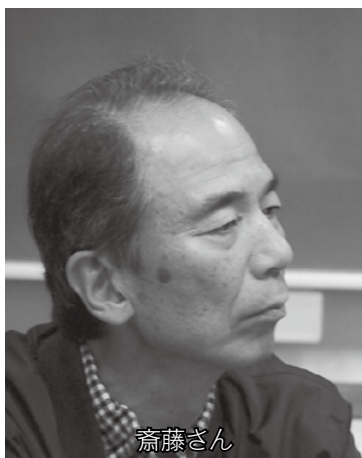
角田さん

〔野菜部会 斎藤 淳さん〕

主な活動としては、エコ農業研究会と春と秋の年2回野菜づくりの研修会をしています。

年々講習会への参加者は減ってきているような気がします。新規に公社の会員となって頑張っていける人はなかなか増えていないように感じます。

退職者が就農しやすい環境整備も必要ではないかと考えます。



斎藤さん